

## 国際化学肥料ニュース (2013年1月号)

### 肥料業界の2013年1月動態

- \* 2013年1月4日、カナダ Conpotex、ベラルーシ BPC、イスラエル ICL 社は中国側と2013年上半期塩化加里貿易契約が締結されました。この3社は2013年1~6月に中国にCFR400ドル/トンの価格で100万トン塩化加里を輸出することになり、2012年下半期のCFR470ドル/トンに比べ、70ドル/トンの値下げという内容である。

また、1月下旬にカナダ Canpotex は東南アジア6ヶ国との間に塩化加里 CFR450ドル/トンの契約を締結した。ただし、一部の国はベラルーシ BCP との間に CFR450ドルより若干安い価格で纏めた噂もある。また、日本との間に CFR470ドル/トンの価格で契約した。中国に比べ、70ドル/トン高い。

一方、ベラルーシ BCP はブラジルに対して、3月までに塩化加里 CFR450ドル/トン、4月1日から465ドル/トンで販売すると発表し、早急の購入を促した。

インドの2013年塩化加里輸入に関する商談は暗礁に乗り上げた。1月中旬現在、インド国内塩化加里在庫量が80万トン、港に到着したが、輸入手続をしていない量が21.4万トンもあるため、強気で中国同等の待遇を要求している。

- \* 中国税関は2013年輸入塩化加里の輸入関税を1%にすることに決定した。但し、ラオスやチリからの塩化加里には0%関税の優遇措置である。
- \* ロシア Uralkali 社は Acron、Eurochem 等の国内化成肥料メーカー7社との間に塩化加里の長期供給契約を締結した。2013~2017年に Uralkali 社はこれらの7社に計1000万トン塩化加里を供給する。

2012年12月、ロシア政府公正取引局は関連法律に従い、Uralkali社に2013年1月~2017年12月31日までに国内化成肥料メーカーに優遇価格で塩化加里を供給すべき提案書を送付した。その価格は Uralkali 社が前の四半期輸出価格の最安値を超えてはならないというものである。このルールで計算すれば、今年第1四半期の国内販売価格が337ドル/トンである。一昨年、Silvinitを吸収合併した Uralkali 社は世界最大の塩化加里メーカーの一つであり、世界シェアの約20%を占める。現在、Uralkali 社は5ヶ所の加里鉱山、7ヶ所の塩化加里精製工場、12,500名従業員を有する。

\* アメリカ肥料研究所（TFI）の最新データによれば、2012年12月北米の塩化加里生産量123.3万トン、2011年12月より27%減。2012年12月輸出量58.6万トン、2011年12月より20%減。12月末現在の在庫量314.5万トン、2011年12月より65.2万トン多い。なお、2012年の年間塩化加里輸出量802.6万トン。

一方、アメリカ2012年12月のりん酸肥料生産量は97.2万トン、2011年同期より4%増。12月輸出量が30万トン、2011年同期より27%減。12月現在の在庫量が98.5万トン、2011年同期より4.6%減。なお、2012年の一年間りん酸肥料輸出量456.3万トン。その内訳は、DAP輸出量306.6万トン、前年度より16.7%減。主な輸出先はインド101.6万トン、ブラジル44万トン、日本20万トン、アルゼンチン17万トン、ペルー13.2万トン、コロンビア12万トン。MAP輸出量153.3万トン、前年度より17.6%減。主な輸出先はカナダ（数量不明）、オーストラリア31.7万トン、ブラジル24.2万トン、アルゼンチン18万トン、日本10.9万トン、コロンビア10万トン。

\* 国際肥料工業協会（IFA）の予測によれば、2013年の世界化学肥料需要量の増加率が1.5%未満。肥料市場の回復を遅らせる原因としては、世界経済の不安定、為替相場の変動、天候不良が挙げられる。

尿素については、2013年の需要が2.3%増で、一定の強さが保つが、アルジェリア、カタール、アラブ首長国等に新設の尿素工場が完成され、生産量が4~5%増加する見込みで、過剰供給が見られる。一方、主な尿素輸出輸入国の動態としては、エジプトは天然ガス不足で、尿素、特に大粒尿素の生産が大幅減少した。また、アルジェリア Sorfert社の120万トン/年大粒尿素工場の完成が延期となり、イランも天然ガス不足で、Pardis Petrochemical 尿素工場の稼働率が50%低下し、現在1日3000トン大粒尿素しか生産していない。従って、今年第1四半期の大粒尿素の供給量がタイトではないかと推測される。一方、輸入国では、ブラジルは2012年尿素輸入量が287.9万トン、前年より16.2万トン減少したが、12月だけで56.8万トンを輸入し、新記録を樹立した。アメリカは2012年1~11月に尿素輸入量340万トン、前年度より34%増。ベトナムは2012年尿素輸入量45.8万トン、国内にCa MauとNinh Binh尿素工場の完成により、下半期に尿素輸入量が急減し、12月の輸入量が9,123トンであった。イランは2012年尿素輸出量290万トン、その63%がインド向けのものであった。韓国は2012年尿素輸

入量 74.3 万トン、前年度より 24%増。その理由は国内尿素工場が閉鎖され、国内産尿素量が減った。

一方、りん酸肥料については、2013 年の市況が改善されない見通しである。2012 年世界のりん酸肥料消費量が前年度より 1.5%減、2013 年が若干増加に転じる可能性があるが、生産能力の増大が需給の増加を大きく超え、供給過剰の局面が持続していくだろう。2011 年末の DAP 基準価格 (FOB アメリカフロリダ州) は 520~540 ドル/トン、2012 年末には 495~500 ドル/トンに下落した。2013 年はインドの DAP 在庫 200 万トン、中国の非需要期輸出関税が 1 ヶ月の期間延長および関税率が 7%から 5%に低減され、輸出が刺激されることにより、2013 年のりん酸肥料価格がさらに下落するだろう。

加里肥料についても、2013 年の価格が低迷すると予測される。最大輸入国中国との輸出契約では昨年同期より 70 ドル/トンの値下げ、第 2 輸入国インドも多分 CFR400~420 ドル/トンで契約するだろう。国際加里肥料巨頭たちはすでに減産に入り、価格維持に全力を尽す。

- \* モロッコ OCP 社はりん安の減産に入った。詳細が分からないが、現在 20 万トン/月の生産量しかない。理由はりん安の価格低迷である。最近、輸出先はブラジルに集中して、輸出価格は FOB500 ドル/トン前後である。一方、チュニジア GPC 社も減産体制に入った。1 月中旬 GPC のりん安在庫量が 5 万トンであった。
- \* チュニジア GPC 社は 2013 年に 400 万トンりん酸肥料を生産する計画。2012 年の生産量は 260 万トンであった。チュニジアは世界第 5 位のりん酸肥料やりん酸塩生産国、2011 年のジャスミン革命でりん酸肥料生産が大打撃を受け、170.8 万トンしか輸出できなかった。2012 年輸出量が 258 万トン、やや回復した。チュニジア政府は失業問題の解決及び経済発展のために、りん酸肥料とりん酸塩工業を重点発展分野と指定し、その生産能力の増強に力を入れた。
- \* 中国国家改革発展委員会は 2012 年の中国化学肥料産業の状況を分析し、その結果を公表した。中国化学肥料産業全体は平穏な発展を呈し、生産能力、生産量及び売上総額が安定に増加している。2012 年中国化学肥料生産量 7,432 万トン(純成分合計、以下同)、前年度より 10.9%増。その内訳は、窒素肥料 4,947 万トン(純 N 換算)、前年度より

11.3%増。りん酸肥料 1,956 万トン(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 換算)、前年度より 10.7%増。加里肥料 530 万トン (K<sub>2</sub>O 換算)、前年度より 7.8%増。全化学肥料産業の生産額 8,047 億人民元 (1 米ドル=6.28 人民元、以下同)、前年度より 19.1%増。2012 年 1~11 月全化学肥料産業では 406 億人民元の純利益を上げて、その中、窒素肥料利益 121 億人民元、りん酸肥料利益 26 億人民元、加里肥料利益 71 億人民元で、粗利率が約 6%であった。

一方、2012 年化学肥料産業への投資額は 1,408 億人民元、前年度より 12.3%増。窒素肥料への投資額は 389 億人民元、りん酸肥料への投資額は 100 億人民元、化成肥料への投資額は 429 億人民元であった。

## 大手各社の営業業績

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* カザフスタン国営窒素肥料社は、所有のアンモニア、硝酸、硝安生産設備の全面更新を完了した。国営窒素肥料社は旧ソビエト時代のアンモニアと硝安工場を元に 2005 年設立した会社で、古い設備の更新に 3700 万ドルを投じて、アンモニアと硝安の生産能力を 50%増強した。
- \* ポリビア YPFB 社は Buli 州にアンモニアと尿素工場を建設することを発表した。当該工場が 2013 年 4 月から建設し、2015 年第 3 四半期に完成する予定である。設計生産能力は尿素 65 万トン/年、アンモニア 40 万トン/年。韓国 SAMSUNG 電子が建設担当。
- \* スペイン Fertiberia 社はペルーにアンモニアと尿素工場を建設する計画をペルー政府に提出した。当該工場は尿素 120 万トン/年、アンモニア 110 万トン/年の生産能力を有し、総投資額 40 億ドル、2017 年完成予定。製品はラテンアメリカ諸国に輸出販売する。
- \* アメリカ新聞報道によれば、アフリカセネガルの Elenilto 社はトーゴ政府と協力して、りん鉱山の開発とりん酸肥料工場の建設に着手する。当該りん鉱山は 20 億トンのりん鉱石埋蔵量を有すると言われる。
- \* 1 月 15 日、アメリカ KBR 社はハンガリ Petfurdo 市にある Nitrogenmuvek 工場のアンモニア合成設備の更新契約を締結した。更新により、アンモニア生産能力が 1000 トン/日から 1650 トン/日に増強する。KBR 社はアンモニア合成設備に優

れた技術を有し、すでに世界中のアンモニア生産能力の半分に当たる 200 件以上のアンモニア合成装置の設計、建設の実績がある。

- \* 1月10日、カナダ Kamalyte 社はインド GFSC 社との間にカナダ Saskatchewan 州に塩化加里精製工場を建設する契約を締結した。GFSC 社は当該工場に 20%出資し、完成後、毎年 35 万トン以上の塩化加里を買い取る約束。Kamalyte 社は Saskatchewan 州に加里鉱石を採鉱権と採掘権を 1 件ずつ持っている。
- \* ブラジルヴァーレ社はアルゼンチンにある加里鉱山と塩化加里精製工場のプロジェクトを無期限停止すると発表した。当該プロジェクトは 6 億ドルを投資し、2014 年に 1 期工事を完成し、年間 240 万トン加里鉱石を産出、2017 年に全部完成、年間 430 万トン加里鉱石を産出する予定であった。停止の原因は世界市場での塩化加里の供給過剰により、価格が下落、計画通りの採算が取れないとのことである。

#### その他

- \* 1 月末現在、インド各港に尿素在庫量が 70 万トン、IPL の前回尿素入札でまだ 40 万トンが到着していない。従って、インドの尿素供給に余裕が出て、次の入札が 3 月末か 4 月初めに延期する。2012 年 4～11 月にインド国内尿素生産量 1477 万トン、輸入量 542 万トン、販売量 1898 万トンであった。
- \* 2012 年 10 月、ロシア尿素輸出量 46.5 万トン、前年度同期より 31%増。2012 年 1～10 月、ロシア尿素輸出量 400 万トン、前年度より 4.5%減であった。
- \* ベラルーシ政府統計委員会のデータによれば、2012 年 1～10 月、塩化加里輸出量 323.4 万トン（純 K<sub>2</sub>O 換算、以下同）、前年度より 19.2%減。その内訳は旧ソビエト諸国で構成した独立国家連合体への輸出量が 13.3 万トン、他の国への輸出量が 310.1 万トン。平均輸出価格は独立国家連合体が 700 ドル/トン、他の国が 734 ドル/トンであった。
- \* サウジアラビア Sabic 社は DAP の販売が順調、1 月に 10.5 万トンが輸出する。その内訳はエチオピアに 5 万トン、インドに 3.3 万トン、タイに 2.2 万トン。
- \* 2012 年 1～11 月、トルコが前年度より 66%増の 38.9 万トン DAP を輸入した。主な輸入元がリトアニア 14 万トン、チュニジア 10.6 万トン、ヨルダン 7.1 万トン、サウジアラビア 3.15 万トン、ロシア 2.8 万トン。

- \* ブラジル 2012年 1～11月のりん安輸入量は DAP52.7 万トン、MAP165 万トン。DAPの主な輸入元はアメリカ（39.2 万トン）、モロッコ（1.35 万トン）。MAPの主な輸入元はモロッコ（87.2 万トン）、ロシア（45.9 万トン）、アメリカ（28.9 万トン）であった。また、塩化加里輸入量が 688 万トン、前年度より 7.6%減。
- \* インド政府は資金不足で、化学肥料の補助金の支払いが遅れた。昨年 7 月からりん安の補助金支払が停止したままである。農業省は財務省を通して銀行から肥料会社に補助金額に相当する金額を貸出すように要請した。その借金に対して、農業省が 2013～2014 年の肥料補助金予算で担保する。